



暮らし・福祉・教育優先の市政をめざして

みんなが
住んでよかつた
と思える川西市に...

たんぽぽだより

日本共産党川西市議会議員 **黒田みち**

市会議員団控室 TEL 740-1111 (内線4020)

直通FAX 759-1811

黒田みち事務所 TEL 795-4760

たんぽぽだよりブログ

http://kurodamich.exblog.jp



3月議会総括質問・市民の命と暮らし守り、平和で豊かな川西市へ

市の施策とともに国・県への改善意見も活発に伝えるべき

3月議会で私(黒田)は、日本共産党議員団を代表して越田謙治郎市長の施政方針に対する総括質問を行い、市民のいのちと暮らし、営業をまもり、人口が減らない持続可能な街づくりをめざして討論しました。その中で、国の施策の影響を受ける自治体の立場から、「コロナ対策や戦争に巻き込まれない平和外交の必要性などについて、国にもしっかりと意見を述べるよう求めました。(市ホームページで動画配信)

質問の要旨は以下の通り。個別テーマの詳細は順次報告していきます。

市政運営について

① 中学校給食実施後、生徒や保護者、学校現場から感想、意見が寄せられています。課題と解決策、給食センターへの職員配置の改善見通しについて

② 市立総合医療センター整備で2つの病院を統廃合し急病ベッド158床を減らしましたが、実態や課題と対策。シャトルバスやラピッドレスポンスカーの運行などの整備の課題と対策。市立川西病院の職員として勤務してきた方を全員解雇したことへの総括について

③ 「市民の声や願いを受け止め実現に向けて取り組む」考え方と毎年繰り返される組織再編の評価、市長公室とは何か、市民にわかりやすい信頼される取り組みについて

国の施策と市民をまもるための

国への要請

ポストコロナ、医療の確保を

① ポストコロナ社会で市民の命を守るため、必要な医療、PCR・抗原検査、ワクチン接種など公費負担の継続と副反応・後遺症の相談体制、医療の確保の拡充を国に求めること
市としても適切な対策を講じること
保健所を復活させること

マイナカードの不保持対応

② 市民の安心・安全を担保するため、マイナンバーカードの普及に関して十分な情報を提供し、強制せず、理解・納得を得ること。持たない人が不利益にならないよう、国に意見を述べること

市民への窓口・電話対応は丁寧に行い、ICT活用による画一的な滞納処分を行わないこと
インボイス制度は中止するよう国に意見を述べること

「戦争回避」へ国に意見を

③ 本市には陸上自衛隊、川西・伊丹駐屯地があり、「戦争」と深くかかわっています。市民のいのち、暮らし、財産を守る立場で、国に意見を表明し意見を述べることは重要です。
とりわけ、戦争に巻き込まれかねない「安保関連3文書」の撤回を。憲法遵守、九条を守るように意見を述べることを提起しました。

人口減少させないまちづくり

公立園の存続、図書館行政など

① 人口を減少させない、持続可能なまちづくりを進めるため、清和台東谷幼稚園の公立園としての存続とこども園化を進めること
教育委員会から市長部局へ移す図書館、公民館(行政センター)への考え方、北消防署と多田出張所の再編統合について

学校給食の無償化や0〜2歳児

の保育料無償化などさらに子育て応援を進める考え方について

現場重視で施策の策定を

② 第6次総合計画は市民意見を反映して策定すること
市長のマネIFESTOが市民の要望や意見と食い違っていることが散見されます。
教育・保育施設、公民館・図書館などの出先機関の施策を進める時には、現場への情報提供・説明責任、現場の知恵と力を借りて、現場中心で施策策定・展開できるようにすること

③ 北部地域の医療確保について
「旧川西病院」で発熱外来の設置や「北部診療所」で明らかにしていた内容を行うこと。市内で出産できる場所の確保についての考え方について

④ 市民の移動権が保証され、良好な住環境を維持するための公共交通の存続を求める取り組みや地域公共交通の策定・実現・実施にむけた取り組みの具体化

⑤ 持続可能なごみの処理方法
今年度からはじまった地域別収集への市の見解、市民からの意見・課題と今後の取組みについて
人口とごみ量が減少する中での国崎クリーンセンターの灰溶融炉廃止、大規模改修・長寿命化計画、一般廃棄物処理基本計画策定への市の考え方について

医療費無料化などで前進 国への意見表明は消極的

3月議会にむけて私たち日本共産党議員団は、市民の要望や意見をまとめ2023(R5)年度予算要望書(224項目)として提出、懇談しました。

新年度から中学校卒業までの入院・外来医療費無料化と高校生の入院無料化(どちらも所得制限なし)やガン検診の無料化、留守家庭児童育成クラブ(公立)での夏季休暇中のランチ提供などが実現し、喜んでいますが、
しかし...裏につづく...

中学校給食、約4割の生徒満足 栄養教諭1名増員「食育」はじまる 引き続き給食の無償化を要望

中学生の給食に対する評価

質問(%)	12月12日(月)~12月16日(金)アンケート実施 (3078人 回答率81%)				
給食・印象	大満足8.9	満足29.8	どちらでもない31.8	不満18	大不満11.5
おかず味つけ	濃い6.4	適度58.7	薄い34.9	残食率	
おかず量	多い17.7	適量54.7	少ない27.6	(9月~12月)	
ごはん固さ	固い15	適度69.6	やわらかい15.4	15.32%	
ごはん量	多い47.5	適量45.8	少ない6.7	(2月) 14.76%	

(表) (9月~12月の残食率 ごはん18.74% おかず12.49%)

この間、課題として提案してきた職員配置は、4月から栄養教諭を1名増員。食育計画の実施が行われていきます。川西の農業育成を視野に入れ、地産地消を拡大する取り組みを引き続き求めています。

2学期・3学期、小学校給食ともに給食費の無償化が行われていましたが、新年度から元に戻ります。議員団としては、保育所やこども園などを含め給食費の無償化を求めているところです。

新年度、留守家庭児童育成クラブ・夏季休業中のランチ提供がはじまります。今年度は公立のクラブで実施、結果をみて民間への実施を考えるとのことです。こどもたちの健康やかな成長のための食の保障になっていくよう提案を続けていきます。

